



全てに手が届く
シンプルな暮らしです

移住者
インタビュー

2

宅間 教雄さん

都内の水産会社を早期退職後、神奈川県川崎市から2016年7月に茨城町へ移住。フリーの通訳として活動する傍ら、山歩きやサイクリングなどの趣味を満喫中。お母様と奥様の3人で暮らしています。

移住のきっかけは、63歳の時に早期退職したことです。あと2年働くよりも早めにセカンドライフを楽しみたいという気持ちが強く、同時に、独り暮らしをしていた母を呼んで一緒に住みたいと考えていました。そんな折、たまたま桜の郷の近くを通りかかったのです。美しく整備され、すぐ近くに病院や介護施設、スーパーがあり理想的な場所だと感じました。

茨城町のことは、妻の実家が隣町なのでよく知っていました。自然豊かで海や湖、山もすぐそばにあり、水戸市へのアクセスも良いという、地の利が最大の魅力だと思います。

実は、移住した当初は農業に興味があり、茨城県立農業大学校に通っていました。その頃ふと、以前仕事で使っていたインドネシア語を生かせる活動がないかな、という思いがよぎったのです。色々とした結果、町が紹介してくれた国際交流協会での通訳ボランティアを始める

ことになりました。それがきっかけで各方面からお仕事を頂くことが増え、今はフリーの通訳として活動しています。インドネシア語は前の仕事で使い始め30年近く経ちますが、今依頼を受ける仕事のジャンルは多岐に渡っており、また新たに勉強することも多く刺激になります。

プライベートでは、車を運転するのは私だけなので、買い出しや母の通院などを手伝っています。自由な時間には、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」へ行ってサイクリングをしたり、難台山や吾国山等に行ってお山歩きしています。車で少し行けば豊かな自然があるので、以前よりも運動をすることが増え健康になりましたよ。

今後は通訳の仕事を生きかたに据え、妻や母と和やかに暮らしていきたいですね。目下の楽しみは旅行で、私がかつて暮らしたインドネシアの町や娘が暮らすニュージーランドに、妻と訪れる機会を作りたいと思っています。